【授業科目】国際看護学（概念・理論・基本的方法）　Global Nursing

担　当　教　員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
吉野 亜沙子、松浦 未来、髙井 久実子	３年次 前　期	選 択	1	１５	講　義			可

授業概要（内容と進め方）及び課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要と目標／国際保健看護（International/global health nursing）とは何なのかを概観した上で、国際保健看護の具体的活動例についての理解を深め、健康と社会、世界のつながりを考えるための基礎を身に付けることを目標とする。 課題に対するフィードバック方法／提出されたレポート課題については、全体の総評コメントを掲示にて公開する。リフレクションペーパーについては、次回以降の講義で回答、シェアする場合がある。
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー④「幅広い視野でヘルスケアシステムにおける看護の専門性ならびに関連する多職種の機能・役割を理解し、連携して地域社会に貢献することができる。」の達成に寄与している。
到達目標（履修者が到達すべき目標）	①　国際保健看護の歴史的背景、さまざまな定義、範囲について述べることができる。 ②　国際保健看護に関わる組織や、世界で行われている健康に関わるとりくみについて具体例を挙げることができる。 ③　健康と社会、世界のつながりについて、分析的に議論できる。
時間外学習に必要な内容・時間	講義の予習・復習に加えて、自らの興味関心のあるテーマについて学びを深める（ニュース・新聞等による情報収集）ことや講義内容をふまえて、自分自身の考えをまとめることに、予習+復習 4 時間／1 回程度が必要となります。 ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習１時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

授業計画	
第１回　国際保健看護とは（1-1）、プライマリ・ヘルス・ケアとヘルスプロモーション（1-5）（個人/グループワーク含む）	吉野
第２回　日本の国際協力（1-3）　MDGs と SDGs、国際保健看護に関わる機関（1-4）（個人ワーク含む）	吉野
第３回　「どうしてジェイソンは病院にいるの？」と「ラクの物語」（1-5、2-6）（個人/グループワーク、プレゼンテーション含む）	吉野
第４回　保健医療人材/国際移動する看護師（2-1）性の多様性（2-2）	吉野
第５回　日本で暮らす外国人と健康（1-2）	松浦
第６回　日本語を母語としない人とのコミュニケーション	松浦
第７回　戦争と難民（2-3）　災害と看護（2-5）	髙井
第８回　国際保健看護をどこで学ぶか、どのような仕事や研究があるのか（3-1～4）まとめ（4-1～2）	髙井
（かっこ内の数字は指定教科書の該当する章、節）	

評価方法 評価基準	定期試験 80%、受講態度 20%で総合的に評価する。		
教科書	近藤麻理著 知って考えて実践する国際看護第２版（医学書院）	参考書等	なし
学生への助言等	「国際保健看護」は歴史的にさまざまな流れをくむ比較的新しい概念で、統一された定義は未だありません。「国際保健看護学」がカバーする範囲についても同様です。国際保健看護というと、開発途上国の健康問題であるとか開発途上国での協力活動とか捉えられがちですが、決してそうではありません。「国際」にとらわれず、健康と社会のつながりについて考えられるようになることを目指します。		